

1 自己評価(北新町ユニット)及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100280		
法人名	社会福祉法人 一乗谷友愛会		
事業所名	グループホーム あさくら		
所在地	福井県福井市下六条町18字37		
自己評価作成日	平成23年 8月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成23年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方に普通の生活をして頂く為に、日々の家事(料理・洗濯干し・掃除)、買い物等を出るだけ一緒に行うようにしています。また、個人個人の得意な事、したい事を行えるよう、生活歴を把握し、日々の活動につなげていけるようにしています。その他、外食、旅行、地域の方との交流など外に出る機会を作り、ホーム内での生活に終わらず、外との交流を図れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは福井市の市街地南部の病院やスーパーなどに囲まれた利便性の高い場所に立地している。建物は木造平屋建で、同一法人が運営する特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。法人の理念のもと、事業所の基本方針として「入居者の人権を守り、自由な生活の追及と実現を目指します」を掲げ、方針を職員全体で共有しケアに努めている。食事や外出など利用者の楽しみの面に力を入れており、食事においては、希望を聞いて献立を作成するとともに、盛り付けについては利用者と考えてもらうなど、調理、準備、後片付け等を一緒に行っている。また、買物、散歩、外食など利用者の希望を聞きながら日常的に外出しているほか、一泊旅行を実施するなどの外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価(北新町ユニット)および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権の尊重・自由な生活の追及と実現が出来るように目指している。会議やミーティングで話し合い、全職員が共有できるようにしている。	法人理念をもとに事業所の基本方針として「入居者の人権を守り、自由な生活の追及と実現を目指します」を掲げ、職員会議やミーティングで話し合い共有している。	玄関の掲示板に掲示している方針について、拡大して掲示するなど外来者にも分かりやすい掲示方法を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店へ買い物・外食に出掛けたり、地域の方と外出や、また、地域の祭りに参加をさせていただいている。今年度からは、保育園・学校・地区の行事に積極的に参加し、少しずつだが交流を図れるようになってきた。	保育園の運動会、学校祭などに参加、観覧している。また地域の祭りやふれあいサロンに参加し、地域住民と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての活動はしていないが、地域の民生委員の方などの施設見学受け入れは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、老人会の会長さんや地域の方へ出席頂き、施設の状況報告をし参加者の方々からご意見を頂いている。また、欠席者にも記録を郵送し、施設の現状把握をして頂いている。	運営推進会議は関係所管の代表が参加を得て2か月に1回開催している。サービスの状況や現状の諸課題について提起し、参加者から意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方には運営推進会議へ出席していただいているが、その他ではあまり連絡を密に取っていない。	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議への参加を得ているほか、必要に応じて連絡を取っている。	事業所の運営上の課題等について包括支援センター職員に連絡し相談するなど、より積極的に連携をとることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止については、職員研修会で学んでいる。また、月1度委員会を実施し、拘束について話し合っている。その他、玄関などの施錠も自宅と同様で、19時過ぎ～20時の間にし、拘束はしない自由な生活を目指している。	身体拘束をしないケアについて職員研修会を行ったり、月1回、身体拘束に関する委員会を開催するなど、理解を深める取り組みを行っている。また日々の業務の中で職員が気づかずに利用者を害することを防ぐため、現在身体拘束防止のチェックリストを作成するなど、積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については委員会で話し合い、話し合った内容を月一度の職員会議で伝達し、学びを深める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はおこなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、積極的に話しかけ、何でも話して頂ける関係を築くよう努力している。また、ご家族から出た意見要望内容は、ミーティングや会議、家族会で公表し、改善に向けての話し合いをおこなっている。	面会時のほか、文書や電話等にて積極的に家族の意見や要望を聞いている。意見等を運営推進会議や職員間にて検討し運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議で、出席者全員の意見・提案を引き出せるよう努力し、良い提案は実践につなげている。	職員会議や職員へのヒアリングで意見や提案を聞いている。意見等を検討し、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課で、職員の個別面談を行い、職員の意見を聴いたり、必要時は指導を行っている。また、個別の面談なども随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人職員研修会や外部研修があり、職員のレベルに合わせた学習会や外部研修会への参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内にある施設との交流はあまり行っていないが、県外の施設(事業所)との交流は行っており、サービス質の向上の為にネットワーク作りを行っている。その他、今年度8月から県内のサービス連絡会に加入予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の思いや要望を聴き取り、職員間で情報の共有を図るようにしている。また、入居者と関わる時間を増やすよう努力し、関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の思いや要望を聴き取り、職員間で情報の共有を図るようにしている。また、積極的に声をかけ、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・買い物・掃除など全て職員が行うのではなく、常に入居者と一緒に…という事を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の状況を伝えたり、月一度、家族の方に対し、手紙を書き、生活状況・精神状況等を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望される場所への外出を行ったり、友人・知人の面会があれば特に制限などは行っていない。	利用者の希望の馴染みの場所への外出を支援したり、友人知人の面会を認めるなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者の性格・特徴はある程度把握しており、常に個々に目を向け、孤立しないよう注意を払うよう努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や地域などでご家族に会えば、積極的に声をかけ、様子などを聴き必要時は相談にのるように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の台帳作成やアセスメントを行い、集めた情報を活用し、取り組みや関わりを持つようにしている。	アセスメント時や日々の関わりの中で利用者から意向を聴き取り、記録にまとめ把握している。家族にも電話や面会時に聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの台帳を作成し、全職員が情報を共有できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の暮らしを少しでも再現できるよう情報をもとに、個々の援助を行うようにしている。また、月一度のユニット会議を開催し、個々の現状の把握やケアの方法を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向は聞くよう努力をしているが、入居者の方からの意見はあまり聞く事ができない。	これまでの暮らしの状況や日々のかかわりの中で得られた意向や情報を元に担当者が作成している。また、モニタリングを行い短期、長期の評価を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が電算化となつてから記録内容が薄くなったが、出来るだけ記録をとるよう努力し、介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物外出など、臨機応変に対応している。また、状態などが変わった際には、提供するサービス内容を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を活用し、楽しく生活していただけるよう支援をしている。例えば、ショッピングセンターやカラオケボックスに行ったり、移動図書館を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、ご家族付き添いで希望する病院に行ってもらっている。家族や本人の希望によっては往診等を利用している。	病院への受診は基本的には家族の同行としているが、緊急時には職員が同行している。受診時には病院に入居者の生活状況を電話や手紙で知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に求められれば基本情報を渡したり、退院時のカンファレンスには行っている。また、入院時は定期的にお見舞いに行き、情報収集を行っている。しかし、特別な関係作りは行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で意見を聴き、出来るだけ終末期まで対応できるように前向きに検討はしている。	併設の特別養護老人ホーム等と連携を取っており、重度化した際は移ることができる。また、家族会にて意見を聞きながら、ホームにおける支援を今後検討したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参照したり、研修会は行っているが、全職員が実践力を身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分に把握できていない。	年2回、消防署立会いのもと避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時の連絡網など体制を確立しており、消火器等を備えている。	今後、夜間を想定した訓練や、地域住民の協力を得た訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の基本原則を守り、常に笑顔で対応し、依頼形での会話を心がけている。	利用者の気持ちを損ねない言葉かけや対応を心がけている。調査時には、職員が穏やかに対応している様子が伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外出などは本人の望む所へ出掛け、何が良いかを選んでもらっている。また、生活の中でも入浴後に着る服などを入居者の方に選んでもらったりと自己決定を促す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで起床し、テレビを見たり、畑仕事をしたりと、それぞれに過ごしている。集団で何かを行う等は基本、行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛にウィッグをつけたり、行きつけの美容室に行ったり、着たい服を着てもらったりと、その人らしさを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・準備・後片付けも入居者と一緒に行っている。また、料理に関しては、入居者の方に希望を聴く様にしている。	献立は利用者の希望を聞いて作成している。利用者と話し合いながら盛付を考えるなど、利用者と一緒に調理や準備、後片付けを行っている。食事委員会を設け、栄養について研鑽を積んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量・水分量もチェックし、1日のトータルの摂取量を把握するよう努めている。また、食事が摂れない方には、栄養補助食品を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後の口腔ケアは徹底しているが、昼食後に関しては、全員ではなく個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの時間は決まっていなく、その日の個々の状態によって随時誘導している。また、排泄動作も、出る出来ないを見極め、出来ない部分を手伝っている。	利用者の排泄パターンや、当日の利用者の状況を見ながら誘導している。介助では利用者のできない部分を支援するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ったり、食物繊維の食事を提供したり、果物やヨーグルトなどを摂ってもらい、便秘の予防をしている。それでも出ない場合は、医療機関に相談し、下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望者には、毎日ではないが夜に入浴してもらおうことがある。また、入浴の曜日や時間は特に決めてはいない。	入浴日、時間は決めておらず、希望に応じて入浴を支援している。また希望により夜間入浴や同姓介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は皆、バラバラで、テレビを見たり、新聞を読んだり一人ひとり自由にリラックスできるよう支援している。夜は21時頃までリビングで過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルをユニットにおき、用法を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や料理など、生活歴を活かしているが、不十分な面もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や外食などにでかけている。また、「行きたい」と言われる場所に出かける。	食材の買物や散歩、外食、ゴミ捨てなど、利用者の希望を聞きながら、日常的に外出している。また、京都への一泊旅行を実施するなど、積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方もいる。また、施設でお小遣いを預かる場合はいつでも使用できるようになっている。預かる場合は出納帳をつけている。その他、外食に行く際には、職員が支払いを行ってしまうのではなく、入居者の方にお金を渡し、自分で支払い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している人も、手紙を書いている人もいるが、本人自らが自由に電話が出来る環境ではない。公衆電話なども設置はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衝立や暖簾などを使用し、空間づくりを行っているので、不快に思うような設えでは無いが、「家」と考えると、民家とは違い、生活観には乏しいハードとなっている。	木の香りが漂う日本家屋の平屋作りで、共有空間は採光がよく居心地のよい空間となっている。観葉植物が置かれていたり、金魚やハムスターを飼うなど、家庭的な雰囲気が作り出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビや椅子が置いてあつたりと、くつろぐことは出来るが、一人になれるような場所は居室しかない。しかし、一人になりたいと自分で感じ取れる方や、気の合った入居者同士で過ごす場合は、それぞれの居室に入りくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人のタンスや持ち物を使っていて落ち着いていただけるよう努力はしているがも人によっては、家族都合もあり、荷物は十分ではない。	居室には利用者の馴染みの品が置かれ、家族の写真や絵画が飾られるなど、自宅同様の環境が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	奥の居室の方は、玄関までの距離が遠い。また、トイレのドアも居室のドアも色は同じで慣れるまでは間違ふこともある。		

1 自己評価(南新町)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100280		
法人名	社会福祉法人 一乗谷友愛会		
事業所名	グループホーム あさくら		
所在地	福井県福井市下六条町18字37		
自己評価作成日	平成23年 8月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方に普通の生活をして頂く為に、日々の家事(料理・洗濯干し・掃除)、買い物等を出るだけ一緒に行うようにしています。また、個々人の得意な事、したい事を行えるよう、生活歴を把握し、日々の活動につなげていけるようにしています。その他、外食、旅行、地域の方との交流など外に出る機会を作り、ホーム内での生活に終わらず、外との交流を図れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価(南新町ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権の尊重・自由な生活の追及と実現が出来るように目指している。会議やミーティングで話し合い、全職員が共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店へ買い物・外食に出掛けたり、地域の方と外出や、また、地域の祭りに参加をさせていただいている。今年度からは、保育園・学校・地区の行事に積極的に参加し、少しずつだが交流を図れるようになってきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての活動はしていないが、地域の民生委員の方などの施設見学受け入れは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、老人会の会長さんや地域の方へ出席頂き、施設の状況報告をし参加者の方々からご意見を頂いている。また、欠席者にも記録を郵送し、施設の現状把握をして頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方には運営推進会に出席していただいているが、その他ではあまり連絡を密に取っていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止については、職員研修会で学んでいる。また、月1度委員会を実施し、拘束について話し合っている。その他、玄関などの施錠も自宅と同様で、19時過ぎ～20時の間にし、拘束はしない自由な生活を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については委員会で話し合い、話し合った内容を月一度の職員会議で伝達し、学びを深める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はおこなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、積極的に話しかけ、何でも話して頂ける関係を築くよう努力している。また、ご家族から出た意見要望内容は、ミーティングや会議、家族会で公表し、改善に向けての話し合いをおこなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議で、出席者全員の意見・提案を引き出せるよう努力し、良い提案は実践につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課で、職員の個別面談を行い、職員の意見を聴いたり、必要時は指導を行っている。また、個別の面談なども随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人職員研修会や外部研修があり、職員のレベルに合わせた学習会や外部研修会への参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内にある施設との交流はあまり行っていないが、県外の施設(事業所)との交流は行っており、サービス質の向上の為ネットワーク作りを行っている。その他、今年度8月から県内のサービス連絡会に加入予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の思いや要望を聴き取り、職員間で情報の共有を図るようにしている。また、入居者と関わる時間を増やすよう努力し、関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の思いや要望を聴き取り、職員間で情報の共有を図るようにしている。また、積極的に声をかけ、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・買い物・掃除など全て職員が行うのではなく、常に入居者と一緒に…という事を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の状況を伝えたり、月一度、家族の方に対し、手紙を書き、生活状況・精神状況等を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望される場所への外出を行ったり、友人・知人の面会があれば特に制限などは行っていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者の性格・特徴はある程度把握しており、常に個々に目を向け、孤立しないよう注意を払うよう努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や地域などでご家族に会えば、積極的に声をかけ、様子などを聴き必要時は相談にのるように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の台帳作成やアセスメントを行い、集めた情報を活用し、取り組みや関わりを持つようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの台帳を作成し、全職員が情報を共有できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の暮らしを少しでも再現できるよう情報をもとに、個々の援助を行うようにしている。また、月一度のユニット会議を開催し、個々人の現状の把握やケアの方法を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向は聞くよう努力をしているが、入居者の方からの意見はあまり聞く事ができない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が電算化となつてから記録内容が薄くなったが、出来るだけ記録をとるよう努力し、介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物外出など、臨機応変に対応している。また、状態などが変わった際には、提供するサービス内容を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を活用し、楽しく生活していただけるよう支援をしている。例えば、ショッピングセンターやカラオケボックスに行ったり、移動図書館を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、ご家族付き添いで希望する病院に行っている。家族や本人の希望によっては往診等を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に求められれば基本情報を渡したり、退院時のカンファレンスには行っている。また、入院時は定期的にお見舞いに行き、情報収集を行っている。しかし、特別な関係作りは行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で意見を聴き、出来るだけ終末期まで対応できるように前向きに検討はしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参照したり、研修会は行っているが、全職員が実践力を身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分に把握できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の基本原則を守り、常に笑顔で対応し、依頼形での会話を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外食などは本人の望む所へ出掛け、何が良いかを選んでもらっている。また、生活の中でも入浴後に着る服などを入居者の方に選んでもらったりと自己決定を促す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで起床し、テレビを見たり、畑仕事をしたりと、それぞれに過ごしている。集団で何かを行う等は基本、行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛にウィッグをつけたり、行きつけの美容室に行ったり、着たい服を着てもらったりと、その人らしさを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・準備・後片付けも入居者と一緒に行っている。また、料理に関しては、入居者の方に希望を聴く様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量・水分量もチェックし、1日のトータルの摂取量を把握するよう努めている。また、食事が摂れない方には、栄養補助食品を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後の口腔ケアは徹底しているが、昼食後に関しては、全員ではなく個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの時間は決まっていなく、その日の個々の状態によって随時誘導している。また、排泄動作も、出る出来ないを見極め、出来ない部分を手伝っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ったり、食物繊維の食事を提供したり、果物やヨーグルトなどを摂ってもらい、便秘の予防をしている。それでも出ない場合は、医療機関に相談し、下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望者には、毎日ではないが夜に入浴をしてもらうことがある。また、入浴の曜日や時間は特に決めてはいない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は皆、バラバラで、テレビを見たり、新聞を読んだり一人ひとり自由にリラックスできるよう支援している。夜は21時頃までリビングで過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルをユニットにおき、用法を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や料理など、生活歴を活かしているが、不十分な面もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や外食などにでかけている。また、「行きたい」と言われる場所に出かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方もいる。また、施設でお小遣いを預かる場合はいつでも使用できるようになっている。預かる場合は出納帳をつけている。その他、外食に行く際には、職員が支払いを行ってしまうのではなく、入居者の方にお金を渡し、自分で支払い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している人も、手紙を書いている人もいるが、本人自らが自由に電話が出来る環境ではない。公衆電話なども設置はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衝立や暖簾などを使用し、空間づくりを行っているので、不快に思うような設えでは無いが、「家」と考えると、民家とは違い、生活観には乏しいハードとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビや椅子が置いてあつたりと、くつろぐことは出来るが、一人になれるような場所は居室しかない。しかし、一人になりたいと自分で感じ取れる方や、気の合った入居者同士で過ごす場合は、それぞれの居室に入りくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人のタンスや持ち物を使っていて落ち着いていただけるよう努力はしているがも人によっては、家族都合もあり、荷物は十分ではない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	奥の居室の方は、玄関までの距離が遠い。また、トイレのドアも居室のドアも色は同じで慣れるまでは間違ふこともある。		